



あゆみ

No. 149

令和元年 8月30日

編集 発行：茶山寮・第二茶山寮

天草市本町下河内 680

TEL 0969-22-5339・0969-22-1766

FAX 0969-22-5090

令和最初の天草市今中道中総踊り！

一致団結！躍動した！！



『利用者さんの死』

施設長 鮑田 一夫

秋雨前線が涼しい空気を持ってきてくれました。今夏、茶山寮、第二茶山寮あわせて二名の利用者さんが相次いで亡くなりました。どちらの方も最後は病院でとなりましたが、茶山寮の方はその前に一晩だけ退院することができ、後になってみればそれが皆とのお別れとなりました。こういう施設では、

死というものが常に生活の裏側にあるといっても過言ではありません。病気、事故などが死に繋がっていく危険性は大きく、職員はいつも最悪の事態も想定しながら仕事をしなければなりません。従ってその危険性を少しでも減らすためにKYT（危険予知トレーニング）、ヒヤリハット、各種研修、ケア会議などを実践しています。しかしそれでも避けられない死があり、その死によってあぶり出されてくるのがその利用者さんの生（生き様）であり、私達との関わりです。親しい人が亡くなったら、私達はその喪失感とともに自分との関わりをもう一度なぞろうとしないでしょうか。それが死を悼むということだと思えます。利用者さんが亡くなった時も全く同じです。ここでの

生活の長短に係わらず、私達がその利用者さんの何を知り何を知らずどれだけの深さで繋がりを持とうとしてきたか、大変抽象的で申し訳ないのですが、具体的支援の底にある目に見えない私達の葛藤の濃淡が、利用者さんの死によって明らかにされるのです。

今夏、利用者さんの初盆参りの折、御家族が一冊のファイルを見せてくださいました。そのファイルには、私達が二ヶ月に一度御家族に送ってきた利用者さんの写真と近況を述べた文「担当よりのお知らせ」が平成十四年分から保存してありました。もうそれは立派な一冊のアルバムと言える分量でした。その中の利用者さんの髪がだんだん白くなっていくのを見てみると、それを大切に取っておいていた御家族への感謝と、小さなことですがこの便りを続けてきて良かったという想いが湧いてきました。この便りがそれを受け取る御家族にもそれを書く職員にもその利用者さんの生きてきた刻印となるのが、一つの救いであるからです。私達の仕事の底にどのような真実があるか、これからもそれを確認しつつ一つ一つの支援を実践していき



サービスの現場より



『縁の下の力持ち』

支援課長 島内 寧

当施設に六月から新たな仲間三人が入職されました。その方の勤務体系は月々金曜日の九時三十分〜十四時三十分迄で、仕事の内容は主に清掃です。しかし、それ以外でも、汚れている箇所を見つけると、手際よく綺麗にされます。この間は、全棟のサッシを外し水洗いをしていただき、汚れている箇所を素早く見つけられます。先ず綺麗になったと感じた箇所はトイレです。便器と床の隙間の黄ばみが確実に薄くなり廊下も三年前の新設のようにピカピカです。

このサポートスタッフの方々のおかげで、私達支援員は利用者支援に集中できるようになり、利用者の方の生活の場である施設は何時も綺麗に保たれており、本当に助かっています。何より、サポートスタッフの方々の清掃に対する気持ちや常に一生懸命で、観ていてカッコイイオーラを感じるし、仕事に対しての自負が何え頼りになる無くてはならない存在です。清掃のバイトをしていた時にその責任者の方が「掃除の極意は何時もと何ら変わらないと感じてもらえるように清掃する事」その言葉を思いだしました。

私達も、サポートスタッフのように、支援のプロと呼ばれるように、各自が極意を習得し利用者の方から頼りになると思ってもらえるように頑張ります。



『不審者対応訓練』

支援副主任 菊地 泰博

二〇一六年、相模原市の障害者施設の津久井やまゆり園での

事件以来、啓明会の各施設の防火管理者と打ち合わせ、毎年不審者対応訓練を実施しております。有事の際に適切な対応で利用者の安全を守る事が出来る事を目的としています。今までは職員へ不審者の対応をメインとした講習会を行っていましたが、今回は実際に不審者が侵入してきた事を想定して、初となる訓練を行いました。いつもの避難訓練で避難完了タイムが五分前後の時間を要している為、不審者対応にあたる職員二名に、五分間時間を稼ぎ食い止めてもらうようお願いをしました。施設内にあるほうきや脚立、近くにある物を投げる等で応戦してもらいましたが、四分程が限界で人員確認がまだ出来ていない中、不審者に突破されてしまうという結果になってしまいました。反省では、「実際あれば怖くて対応できない。」「五分は稼げない。」「等色々な反省点や課題も見つけられました。私たち職員は利用者を安心して生活できるようにサポートし、また、それを守る義務があります。しかし、職員も自身の人間であり、職場を離れば各々の家庭もあります。利用者はもちろん職員も守るために有事の際に適切な対応が出来るよう備品の購入を検討し、今回は安全性を向上させたさすまたタックル（ロック機構搭載）を荅山寮、第二荅山寮各ひとつずつ購入する事としました。



『キャンプ』

支援員 和田 卓巳

八月六、七日で茂木根海水浴場に

キャンプの予定でしたが、大変残念な事に台風の影響で中止となりました。参加される方ばかりとして七日に茂木根海水浴場でのバーベキューを実施しました。海も見え風も涼しくバーベキューをするのに最高の気候でした。準備の段階では、皆さんが「飲み物準備しようか？」や「皿の準備をしとくけん」と率先し手伝いをして頂き、参加された皆さんで準備をする事が出来ました。肉を焼いている時にも「肉をひっくり返してみたい」と話され一緒にお肉を返す方もおり「海を見ながらバーベキューも良いね」と満足されていました。バーベキュー後には、砂浜でスイカ割りを行いました。目隠しをして声で誘導しますが、「どこ？どこね？」と楽しんでスイカ割りをされていました。スイカが割れると観戦している方から「おー」と歓声が沸き楽しんでる様子が窺えました。割ったスイカを食べる際にも「お肉食べてスイカも食べれば今日は文句ない」と笑顔で話して貰い嬉しかったです。今回キャンプは台風で行う事が叶いませんでした。中止になった時の落ち込んでいた顔を見ると、バーベキューとして実施出来皆さん楽しまれておりとても嬉しかったです。今後も皆さんが楽しめるような企画を考え、日々生活の力、楽しさに直結出来る様に寄り添いながら利用者さんの声を聞いていきたいと思っております。



『地域活動委員会について』

支援員 若山 慎



地域活動委員会は利用者と家族と地域社会を結びつけ、

繋がりを構築していくことを目標に様々な活動に取り組んでいる委員会です。今年度の重点目標を「家族との関係を強くする」と定め、職員十二名、利用者二名で行事や活動の発案・実施を行っています。行事・活動内容としては、施設内でカフェの気分を味わって頂き、ゆっくりとした時間を提供するオープンカフェ・外部カフェ。地域のゴミ拾いや清掃活動を行うグリーン・クリーン活動。施設内の出来事や季節の行事風景などをお知らせする機関紙あゆみ・担当よりのお知らせ発行。利用者が作った作物や手芸品等の作品を展示会で出展する展示会活動。その他フラダンスや読み聞かせ会等ボランティアを受け入れる活動等、多岐にわたり実施しています。

委員会内では月に一、二回会議を開き行事についての内容の見直しや、新しいことを取り入れてマンネリ化を防ぐようアイデアを持ち寄って話し合いを進めています。又、利用者からの意見も反映出来るよう、会議に利用者も参加してもらいながら活動内容の決定を行っています。今年度の重点目標でもある「家族との関係を強くする」では、委員会として、できる限り家族との繋がりを強く・深くするために展示会等への参加促しや担当よりのお知らせの内容を細やかにする等、些細なことではありますが少しずつでも繋がりを強化出来るように取り組んでいます。これからも利用者と施設が地域を大切にして、地域からも大切にされるように委員会としての役割に取り組んでいきます。

『人権研修に参加して』

調理員 福田 優



今回初めて参加させてもらいました。「支援を受けるから選ぶ時代へ」～当事者・支援者の枠を越えて～をテーマに七月五日熊本で開催され、講師の南雲明彦さんの講話を聞かせていただきました。南雲明彦さんは読み書きに困難を伴うディスレクシアという障害を持たれていますが、その障害がまだまだ日本では認知が低いことに驚きました。私が一番印象に残った言葉は「利用者

に役割があると、生きることの意味は分からなくても明日に向かう力になる」という言葉です。利用者の思いを決めつけず気づくこと、知ろうとすること、そして尊重することが大切であると感じました。「人権」身近なものだからこそ私達一人一人考えて答えを見つけ行動していこうと思いました。

『発達障害スーパードバイザー養成研修』

支援員 山下 鉄兵



発達障害は、アスペルガー症候群、高機能自閉症、自閉症スペクトラム、知的障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害、協調運動障害を総合した呼び方です。

基本的な特性として認知の障害があり、集団で行動する事が苦手で社会に出ると苦労する事に陥りやすい事がある反面、サヴァン症候群等のある特定分野に限って人並み以上の優れた能力を発揮する事が症例として上げられています。その状況を踏まえ、発達障害スーパードバイザーが支援を行う時はまずは対象者の評価を行い、その人の特性を知り、本人に合った環境・課題設定を行った上でより具体的な支援を行っている事が大切になってきます。私達が利用者様の個別支援を設定させて頂く際に、その支援の一つが本当にその利用者様の意思に沿った個別支援になっているかを改めて考えさせて頂く良い機会となりました。さらに本人の意向にそぐわない支援を行うと、その人にとって苦痛でしかない事を再度頭に入れ、今後も支援していきたいと考えます。

『社会福祉法人 主任係長講座』

支援副主任 鮑田 祐介



七月九日～十日、主任係長講座を受講させて頂

きました。福祉施設で働く職員のためのセルフリーダーシップ、人格主義に基づいたリーダーシップの原則を主に学びました。基礎原則として、短期的な結果かつ変化を得たければ行動を変えなければいけません。しかし、長期的かつ本質的な変化を得たいならばパラダイムを変えなければならぬとの事でした。パラダイムとは、個人が周りの世界を認識、理解し、解釈する視点です。

この研修では、特にパラダイムの重要性が印象的で、今までは大きな結果を得る為に対象に対して色々なアプローチを繰り返して結果を求めてきましたが、パラダイム（ものの見方）を変える事で行動が変わり行動が変わる事で当然結果も変わってくると分かりました。パラダイムについては他職員にも伝えて、施設全体で望むような結果が得られない場合は、行動（アクション）の工夫だけでなく視点を変えたパラダイムを実践し、アクションを変化させて大きな結果が得られるよう取り組んでいきたいと考えています。今回の研修は大阪で開催され、各都道府県から二百名の参加がありました。それぞれ施設の良い事や新しい発想、悩みを共感出来たことは、良い経験になりました。

ワークキャンプ

『笑顔は人をつなぐ』

後南中学校 杉尾 泰刀

私は、一日という短い時間で福祉とは？と深く考えさせられました。私は一つの社会勉強だと思いい、このワークキャンプに参加させて頂きました。私が障害を持っている方々に抱いていた正直な気持ち「色々、大変そう」や「誰かが何かしてあげないと」といったマイナスな感じでした。しかし、飽田さんのお話をお聞きして、「悪いのは障がい者の方じゃない、障害者の方に不便な環境を作り出しているこの社会だ」という言葉が印象に残っています。その言葉を聞いて、やっと、障害者の方々は弱くなんかじゃない。悪いのは、この社会だと強く感じました。そして、実際に施設の方々とお話、交流をしていると、皆さんがとても楽しそうで、私自身が元気をもらいました。だから、私も、今日一日、元気に笑顔で頑張ろうと思えました。すると、自分が笑顔でいることで周りの皆さんが自然と笑顔になっていったから、やっぱり笑顔は言葉よりも強い何かを持っていると改めて確信しました。そして、何よりも、印象に残っているのが、皆さんが全ての活動で、楽しそうにしていたことです。誰一人といやそうな顔をする方がいず、すごいなと思えました。私達が最後にさせていただいた、出し物の時には、一緒に踊ってくださる方、手拍子をずっとしてくださる方がたくさんいて、本当に嬉しかったです。このワークキャンプに来て、良かったと感動しました。写真撮影の際には私がたくさんしゃべっていた方たちが自ら私の方に来ていただいて、とてもとても嬉しかったです。そして、皆さん、最高の笑顔でした。笑顔って本当にすごいなと感じさせられた一日でした。

私は、自分の弱い部分に負けてしまう部分があります。だから、そんな時は今回の経験を思い出して、逆境に負けず、強く、たくましく、一生懸命、頑張ろうと思います。本当にありがとうございました。



今年もありがとうございました

笑顔溢れる一日でした！

『家族交流会』

六月十八日

事務員 飽田 一喜

私自身は初参加で少し緊張したまま写真撮影を行っていましたが、利用者の皆様の朗らかに唄う姿に緊張も解れました。

その後は職員が歌ったり、新職員が目隠しでボールを取れずに転んだりする中、終始楽しい雰囲気の中で過ごす事が出来ました。『紙風船』様による琴とハンドベルの演奏には参加できない利用者の方も一体となっていたように思えます。ご家族の皆様と過ごした一時が、利用者の皆様にとって良い思い出になるように来年も楽しめる交流会が開けるように努めてまいります。



これが意外と難しい…



琴の調べに飛び立つ宇宙戦艦



かけがえのない時間



笹の葉もお星様もりりんんと

『調理サークル(そば打ち体験)について』

栄養士 高辻 啓太

本年度も四月から前期の調理サークルが始まりました。昨年度までは「ランチメニューを作れるようになる」という目標をたてそれに向けて私が活動内容や献立を計画していましたが、今年度はメンバーの方から作りたい料理を募り一緒に計画をたて実施しています。

六月はそば打ちと天ぷら作りをしました。特にそば打ちにはメンバーの方も初めて、教える立場の私自身も初めてで、作り方を見ながら一緒に試行錯誤しながら作りました。つなぎを一切使用しなかったもので、中々生地がまとまらず、こねる作業はとても大変で順番で交代しながらこねました。そして、自分の食べる分は自分で、好きな太さにカットしてもらいました。

太麺がいい方、細麺がいい方それぞれの個性がでており、世界に一つだけの手作りそばが完成しました。試食は昼食時に茹でてお出しすると、皆さん「美味しい」と、笑顔で話されとても満足して下さいました。利用者の方が作りたいと言って下さらなかったから私自身もそばを打とうという考えはなかったのです。利用者の皆さんのお陰で貴重な体験を共有することが出来ました。これからもより充実した活動になるよう利用者の方をサポートしていければと思います。



『天草ハイヤ道中総踊り』

支援員 江崎 琢磨

八月三日に開催された「天草ハイヤ道中総踊り」に参加してきました。祭りのフィナーレという事もあり、多くのギャラリーが沿道を埋め尽くす中、参加された皆さんは堂々とした踊りを披露してくださいました。

踊り終えた後、「まだ踊りたい」「緊張した」など様々な声が聞かれましたが、皆さん総じて笑顔であり、心から楽しまれている様子が感じられたひとときでした。



ハイヤハイヤ！ヨイサーヨイサー！
ハッピーならしやもじを叩こう！



【新職員紹介】

濱 美穂さん(第二苓山寮・支援員)



施設関係の仕事は初めてなのでみなさんにご迷惑をおかけします。がよろしくお願ひします。
(七月一日より勤務)



角田 幸太郎さん(第二苓山寮・事務員)



「縁の下の力持ち」として一生懸命頑張ります。将来は子どもと一緒に三味線を演奏したいです。
(七月一日より勤務)

橋本 定さん(第二苓山寮・支援員)



釣りが趣味の三五歳です。早く第二苓山寮の仕事に慣れて、利用者様一人一人に合わせた支援ができるようになりたいと思っています。(八月一日より勤務)



【おくやみ】

濱口 和乎さん

平成四年に入所後、グループホームを経て第二苓山寮で過ごされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

吉田 あい子さん

平成二六年に入所され、五年間苓山寮で穏やかに過ごされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

【お知らせ】

七月二七日に予定しておりました啓明会夏祭りは、十月二六日に秋祭りとして改めることになりました。利用者、地域の皆様方と例年通り楽しめよう取り組んで行きます。



シリーズ1

日常生活の風景

田副 朋也さん



は勿論優勝する事です。

昨年は漢字検定三級に合格されましたが今回はオセロ大会に出場する予定です。毎日いろいろな職員に勝負を挑まれておられ経験を積んでいます。時には職員を負かすほどで実力は充分あります。目標

山口 忠明さん



すばる班で活動

されている山口さんとはかく野菜を育てるのが大好きです。今年はメロンとスイカを栽培されました。とても甘くて美味しいと評判もよく販売まで出来て大満足でした。

行事予定

九月

三日 亀川小交流会
十日 本町消防団合同訓練
十八日 敬老会

十月

十五日 津波対応訓練
二六日 啓明会秋祭り

編集後記

毎日暑い日が続いておりますが、台風が通り過ぎ少しづつ真夏日が少なくなってきました。今年の夏は梅雨が長かったために日照時間も少なかった気が致します。お盆が過ぎ秋に向け祭りなど様々な楽しい行事が沢山行われます。素晴らしい思い出ができるよう体調に気をつけながら皆さん笑顔で過ごせればと思います。



ゴーヤのグリーンカーテン

利用者の吉村裕貴さんが作りました。葉は日差しを遮り、実は夏を乗り切る力を与えてくれます。

